

アルフレックスデンチャーⅡ 臨床レポート

「訪問歯科診療が求められる時代に － 印象採得の工夫によって広がる臨床の可能性 －

日本歯科大学 口腔リハビリテーション多摩クリニック
准教授 佐藤 路子

Profile

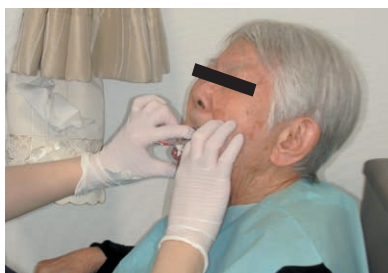


佐藤 路子 さとう みちこ

2005年3月 九州歯科大学歯学部歯学科卒業
2009年3月 九州歯科大学大学院歯学研究科博士課程 修了
2019年10月～2022年3月 同大学総合歯科学講座訪問歯科センター 准教授
2024年4月 日本歯科大学口腔リハビリテーション
多摩クリニック 准教授
現在に至る

日本歯科補綴学会 指導医・専門医
日本歯科専門医機構 補綴歯科専門医
日本老年歯科医学会 専門医
日本有痛者歯科医療学会 認定医
日本障害者歯科学会
日本摂食嚥下リハビリテーション学会

Report



在宅での印象採得



下顎の印象採得



上顎の印象採得

■高齢化とともに高まる訪問歯科診療の必要性

厚生労働省の報告によると、令和5年度末時点における要介護高齢者数は初めて700万人を超え、75歳以上の高齢者では約3人に1人が要介護状態にあるとされています¹⁾。このような状況下において、訪問歯科診療は一部の特別な診療形態ではなく、今後の歯科医療を支える重要な柱の一つであるといえます。

■訪問歯科診療に対する不安と実際の診療環境

一方で、訪問歯科診療に対しては、外来診療とは異なる治療環境や、要介護高齢者への対応に対する不安から、導入に踏み切れない歯科医師も少なくないと考えられます。実際の訪問歯科診療では、診療環境や使用できる機器が限られる中で、患者の全身状態や生活環境に配慮した対応が求められます。

■要介護高齢者の治療で直面する課題

歯科治療は本来、術者と患者の協力によって成り立つものですが、こうした診療環境の中では、要介護高齢者では口腔機能や嚥下機能の低下により、開口を維持することや、注水下で口腔内に水を保持することが困難な場合があります。さらに、運動機能や認知機能の低下により、指示の理解や動作が円滑に進まず、結果として処置に時間を要してしまう場面も少なくありません。そのため、開口器の使用や注水量の調整、注水を必要としない器具や材料の選択など、患者の状態に応じた配慮が不可欠です。

■訪問歯科診療で難しさを感じやすい「印象採得」

このような状況の中で、訪問歯科診療において代表的な課題の一つが印象採得です。印象採得では、患者の協力や開口保持といった要因に加え、印象材の操作性や操作時間といった材料要因が治療の成否に大きく関わります。義歯作製においては、解剖学的形態を正確に再現するため、十分な粘度と操作時間を有する印象材が求められますが、従来はその両立が難しい場面もありました。

また、従来の印象剤では口腔機能の低下、特に口腔内保持能力の低下から、印象材が咽頭流入して誤嚥のリスクがある場合もありました。

■材料選択の工夫が診療を支える

こうした課題に対しては、材料選択を工夫することが有効な対応策の一つと考えられます。アルフレックスデンチャーⅡは、標準混水比でも初期から高い粘度を示し、操作時間に余裕を持って使用できる印象材です。また、**垂れ込みにくく咽頭部へ流れ込みにくい特性**を備えていることから、口腔機能や嚥下機能が低下した患者に対して、**安全性に配慮した印象採得が可能**です。訪問歯科診療においても、材料選択を工夫することで、診療の選択肢を広げる一助となると考えられます。

[参考文献]

- 1) 厚生労働省、令和5年度 介護保険事業状況報告(年報)
<https://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/osirase/jigyo/23/index.html>
最終アクセス2025年12月24日

製造販売元

株式会社 ニッシン

京都府亀岡市旭町樋ノ口88 〒621-0001
www.nissin-dental.jp

発売元

株式会社 モリタ

大阪本社 大阪府吹田市垂水町3-33-18 〒564-8650 TEL:06-6380-2525
東京本社 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL:03-3834-6161
お問合せ お客様相談センター＜歯科医療従事者様専用＞ TEL:0800-222-8020 (フリーコール)
www.dental-plaza.com